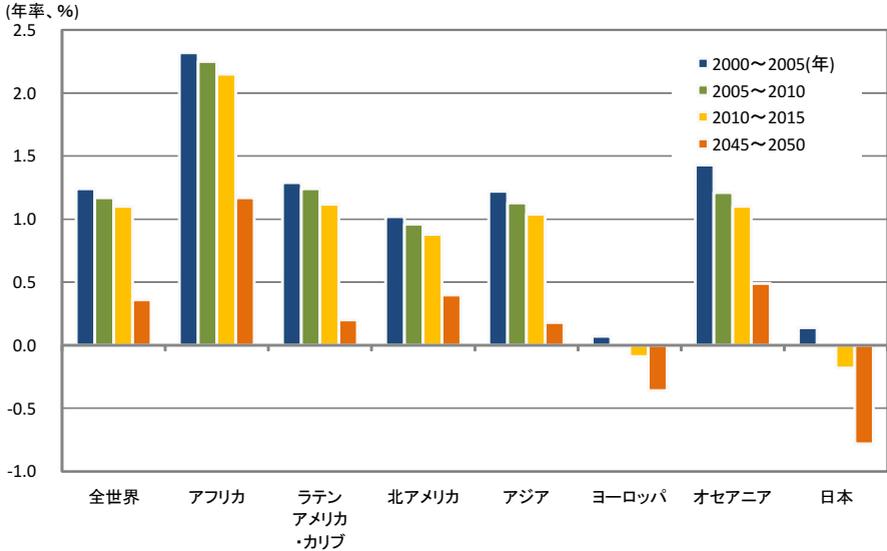


2-2 人口増加率



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第2-2表 人口増加率」(p.60)を参照。

国連の2006年版世界人口予測によると、全世界の人口は、2000年の61億人から2005年には65億人(年率1.24%)、その後2010年までに69億人(年率1.17%)、さらに2050年までには92億人と、2005年からの45年間で約27億人の増加が推計(中位推計)されている。2004年版世界人口予測では、2050年の世界人口の中位推計は91億人であったが、今回の推計では1億人ほど多い予測となっている。これは、国連ミレニアム宣言(2000年)や国連HIV／エイズに関する誓約宣言(2001年)などによる各国政府の取組み等に鑑み、HIV／エイズ感染症の蔓延による死亡率の推計値が下方修正されたことによる。

上のグラフをみると、ヨーロッパ地域及び日本の2000年から2005年の人口増加率は各々0.07%、0.14%と低水準で、2005年以降はマイナスに転じ、2045年～2050年には各々-0.36%、-0.78%へと落ち込む見込みである。他方、アジア地域及び中南米地域については、増加率は低下するものの、2015年までは1%を上回る水準で推移する予測となっている。しかしながら、これらの地域の少子化のスピードが先進地域よりも急速であることから、2050年までには増加率は各々0.18%、0.2%へと落ち込む予測となっている。今後2050年までに最も人口増加率が高い地域はアフリカ地域で、2015年までは年率2%を上回り、2045年以降も1%を上回る水準で推移する見通しである。